

ご安全に！基幹労連の工藤です！（011）

改めて問う！

ご安全に！

基幹労連の工藤です！現在国会で労働者派遣法の改悪が議論されています。基幹労連はこれまで連合の仲間とともに改悪絶対阻止の立場から、各企業連・単組、構成組織、県本部・県センターとともに活動を展開してきました。

しかし「労働者派遣法改正法案」は、維新の党が戦線離脱したことにより大きく動きました。6月12日は皆さんがテレビ等でおられる通り、民主党の議員の仲間の頑張りで法案採決はなんとか阻止できました。背景を簡単に説明します。

これまで民主・維新は結束して本案に反対の立場から国会運営をおこなっていました。維新の戦線離脱とは民主・生活・維新の三党が共同で提出している「同一労働同一賃金推進法案」を、なんと維新と自民のみで法案を一部修正し骨抜きのものとして今後審議する事を決めたというものです。そもそも本案に関し自公は聞く耳を持っていなかったようですが、維新が自民に取り込まれ、維新はその代償として派遣法審議を正常に行うという駆け引きです。共同で法案を提出した民主党へ維新から一言の説明もなく。

現在、派遣法以外にも安保法制などこの国の行く末に大きく影響を与える法案が審議されています。自民党は強行採決を2回もしたくないというのが本音ではないでしょうか。その為にも維新を取り込み全体の印象を良くしようという選択をしたようです。これで派遣法改悪の審議が一気に進みました。

そもそも派遣は一時的・臨時的なものであるにもかかわらず、今後全ての業務で派遣が可能となり、且つ3年で人を変えれば、同じ職場で派遣として働かせ続けられるのです。労働者派遣法改悪は、現場で起きている事が全く分かっていない「生涯派遣で低賃金」となる天下の悪法です。基幹労連は、ものづくり産業の立場からも改悪に反対してきました。この国の戦後復興、高度経済成長を支え、現在グローバル化がますます加速する中、技術・技能を磨き社会に貢献してきたのは、真摯に仕事に向き合い働いてきた、多くの「人の力」です。

このような「人の力」を削ぐ改悪で、ものづくり産業が本当に維持できると考えているのだろうか。

改めて問いたい！

以 上

2015年6月18日
日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 工藤 智司